

地震発生後の流れと避難

地震発生

落ち着いて身の安全確保を!

揺れが落ち着いたら

- 火元の確認
- 窓やドアを開けて逃げ道を確保
- 家族の安否確認



- 自宅が倒壊するおそれがあるか



いいえ

はい

- 隣家の倒壊などで自宅に影響があるか?
- 自宅に留まった場合に身の危険性を感じるか?
- 近隣の火災により、自宅への延焼の危険があるか?

いいえ

はい

地域で定めた
避難先へ集合

地域で
できる限り、
安否の確認を
しましょう。

一時避難場所・広域避難場所へ避難

火災の拡大や、
有毒ガスの発生等で、
一時避難場所も危険な場合は、
広域避難場所やより安全な
場所へ避難する。

いいえ

- 自宅が倒壊
- 自宅が火災で焼失
- 自宅での生活が困難

はい

自宅で生活

避難所で生活

ここが
ポイント

在宅避難のすすめ

地震により水道や下水道などのライフラインが使えなくなったとしても、自宅に倒壊の危険がなく住める場合は、自宅に留まり生活をする「在宅避難」をしましょう。

大地震発生時における避難所は、多数の避難者が押し寄せ混雑が発生する可能性があるほか、プライバシーの確保も困難となります。また、環境の変化により体調を崩すこともあり、決して快適な生活空間とは言えません。

災害発生時にも平常時と同様に、住み慣れた自宅で家族と生活できるよう、日頃から食料や飲料水、簡易トイレの備蓄など防災対策をしておきましょう。

「在宅避難」は、避難所内での新型コロナウイルスやノロウイルスなどの感染症リスクを避けることにも有効です。

自宅周辺の
避難場所と避難所は
P.16からP.23の
防災マップで
確認しよう。



避難場所とは

建物倒壊等、その場にいることが危険であると感じた場合に、命を守るために一時的に避難する場所です。

避難場所には、一時避難場所と広域避難場所があり、グラウンド等のオープンスペースを指します。

避難所とは

地震や火災で自宅が倒壊・焼失してしまい、生活する場所がなくなってしまった方が一定期間生活を送る施設のことです。小・中学校や市立会館等を指します。

